

— 桜地区タウンミーティングより —

～もっと四日市を好きになってもらうために～

約100人の住民の出席のもと、昨年からはまった市長タウンミーティング（市長と地区民との懇談会）が、7月12日(木)に桜地区市民センターで開催されました。

◆誇れるまち四日市へ

市長から「シティプロモーション ～もっと四日市を好きになってもらうために～」をテーマにプレゼンテーションがされました。

四日市市の人口は平成21年度から微減しています。その中でも子育て世代の30代～40代が流出しています。それを食い止めるために「子育てするなら四日市、教育するなら四日市」をキャッチフレーズとして、以下の3施策を重点的に進めています。

- 子ども医療費の窓口負担の無料化！
- 第3子以降の保育料の完全無料化！
- 小中学校の英語教育の充実！



さらに市民アンケートで、“四日市に愛着はあるが、誇りはない”との意見が多く、“誇りの醸成が急務”であることがわかりました。四日市には工場夜景、かぶせ茶、萬古焼など全国に誇るツールがたくさんあります。本年度に創設したシティプロモーション部を始めとするオール四日市の体制で魅力を発信することにより、四日市を誇りに思ってもらえるようにしていくとの決意が表明されました。



◆将来の高齢者に対する交通手段について

桜地区連合自治会長の岡本 宏明さんから、高齢者の交通手段に関するプレゼンテーションがされました。

人口減少、高齢化が進む中、桜地区も将来的には交通弱者が増加していくことが予想されます。そういった状況に今のうちから対応するため、高齢者のニーズに合った交通システムについての社会実験の提案がありました。地域のことは地域のみならずで解決することを目的に提案されたもので、これからの桜地区を守っていくためにいろいろな考えができました。



桜在宅介護支援センターからのお知らせ

市役所に代わって相談業務を行う公的な相談窓口です。
桜地区は、桜在宅介護支援センターが窓口です。

高齢者の生活や
介護の相談は

☎059-326-6618へ
お気軽にお電話ください!



グラフで見る“さくら地区”の人口

少子化・高齢化は、社会全体に関わる重要な課題となっています。そこで桜地区の現状と課題を調べてみました。(使用したデータはすべて4月1日現在です。)

人口

四日市市全体の人口は、平成21年をピークに、僅かに減少していますが、桜地区では平成11年をピークに、大きく減少しています(グラフ-3)。

少子化

高齢化による子育て世代の減少によるものと思われます。四日市市の少子化は進んでいますが、桜地区の少子化は、より顕著に表れています(グラフ-4)。

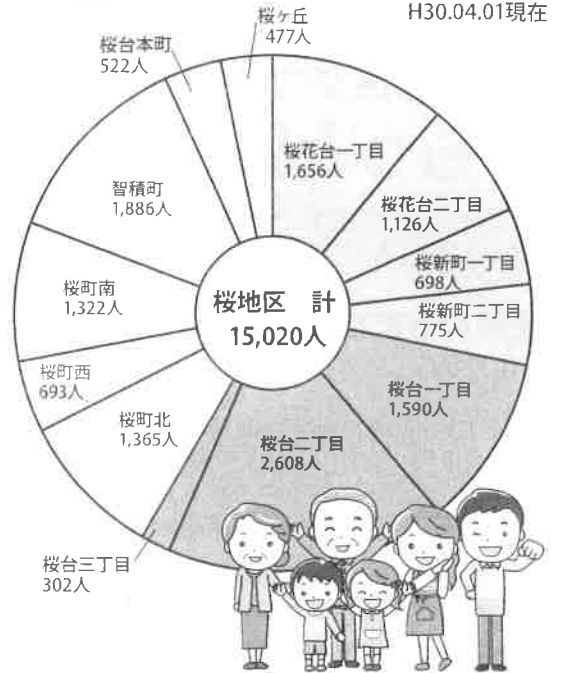
高齢化

桜地区は、ここ30年で、市内で最も高齢者の割合が低い地区から、最も高い地区の一つへと、大きく変貌しました(グラフ-4)。これは、昭和46年頃から桜台、昭和62年頃から桜花台・桜新町への若い世帯の転入が急激に増えたこと、そしてその方々の高齢化によるものと思われます。

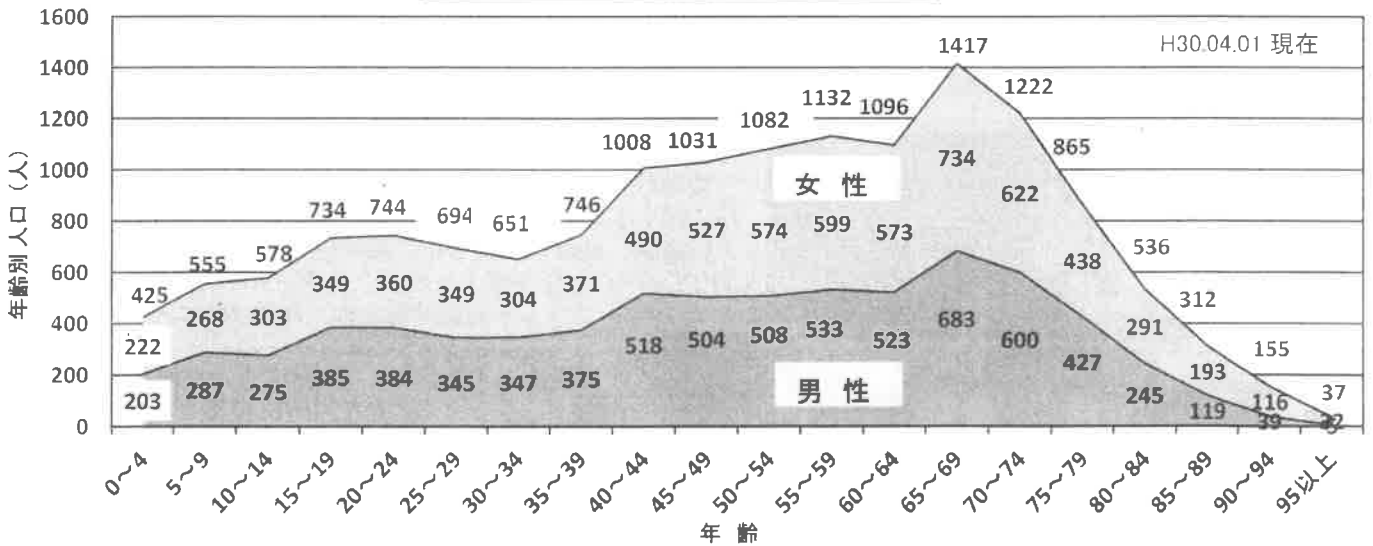
世帯数

人口が減少しているにも拘らず世帯数が増加していることから、少子化、高齢化、並びに若年層の独立(流出)による世帯分離とが進んでいることが読み取れます。(グラフ-6 ~ グラフ-8)

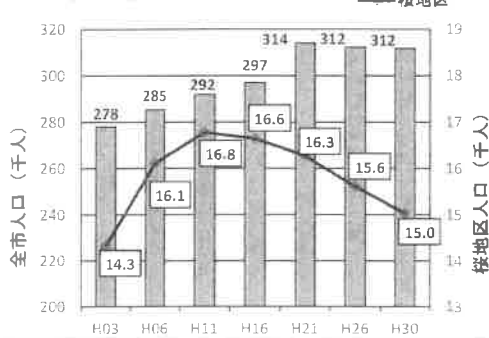
桜地区 町別人口 (グラフ-1)



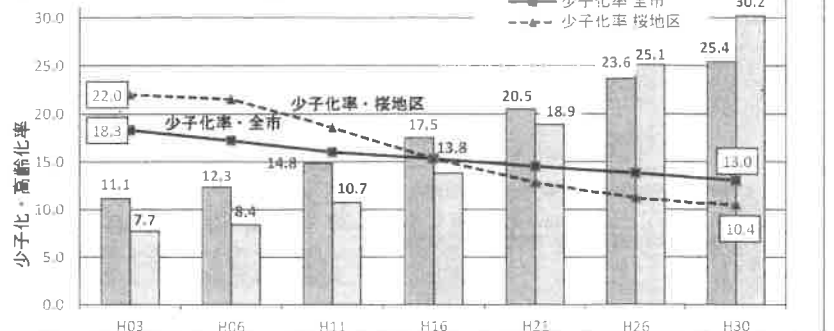
桜地区 年齢別人口分布 (グラフ-2)



人口の推移 (グラフ-3)

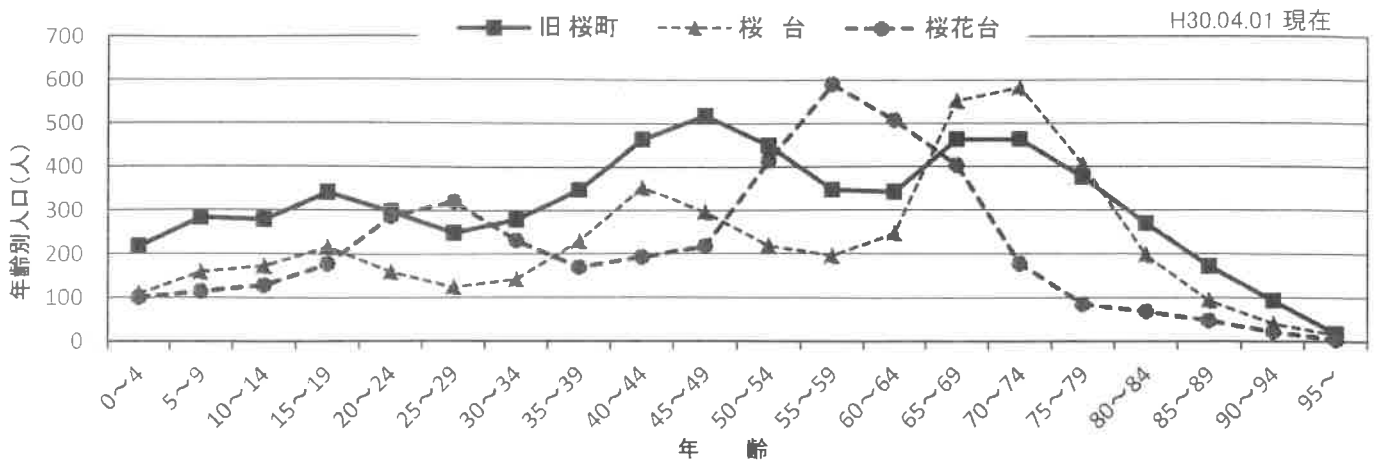


少子・高齢化の推移 (グラフ-4)



少子化 : 全住民数に占める、15歳未満の年少者の割合
 高齢化 : 全住民数に占める、65才以上の高齢者の割合

地区別・年齢別人口分布 (グラフ5)



各町の高齢化の特徴

◆旧桜町

この30年で16.5%上昇しましたが、四日市全体の高齢化にほぼ歩調を合わせた変化になっています(グラフ4、グラフ6)。年齢別の人口分布に極端な変化がないので、今後も緩やかな上昇になるものと思われます(グラフ5)。

◆桜台

平成3年の4.8%から、平成30年は41.9%と、大きく変化しました(グラフ7)。

65才未満の人口分布に極端な変化がないので、今後は旧桜町並みの緩やかな上昇になるものと思われます(グラフ5)。

◆桜花台

平成3年の2.2%から高齢化は少しずつ加速し、平成30年は19.0%となりました(グラフ8)。

50～64歳の人口比率が極めて高いことから、今後一気に高齢化が進むものと思われます(グラフ5)。

これからの課題

桜地区は、近い将来、市内有数の高齢化地域になることが予想されます。その中で生活する私たちは、次の三つの組み合わせにより、自らの行動で桜地区の活性化と、福祉の充実を図らなければなりません。

《公助》

生存権の保障。行政自治体が責任を持って、セーフティネットを構築する。

《互助=共助+近所》

公助だけでは対応できない生活課題に対し、みんなで協働して解決するボランティア・地域福祉活動。

《自助》

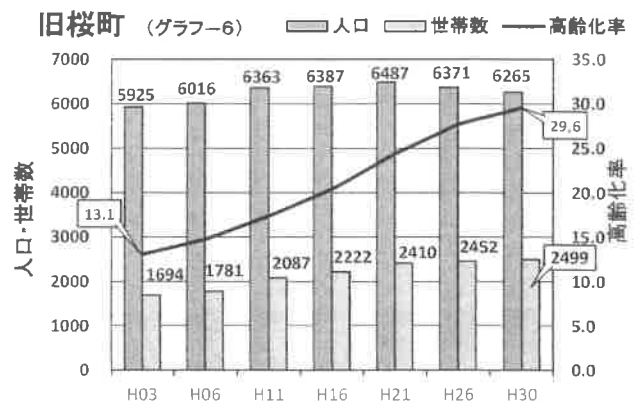
当事者や住民同士がお互いに協力し、支え合って自分たちの暮らしを豊かにする。



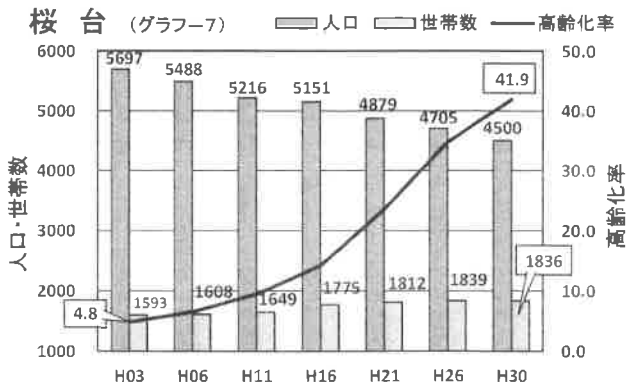
地区割り 旧桜町 ⇒ 桜町北、桜町西、桜町南、智積町、桜台本町、桜ヶ丘
桜台 ⇒ 桜台一丁目～三丁目
桜花台 ⇒ 桜花台一丁目～二丁目
桜新町一丁目～二丁目

地区別推移 (人口・世帯数・高齢化率)

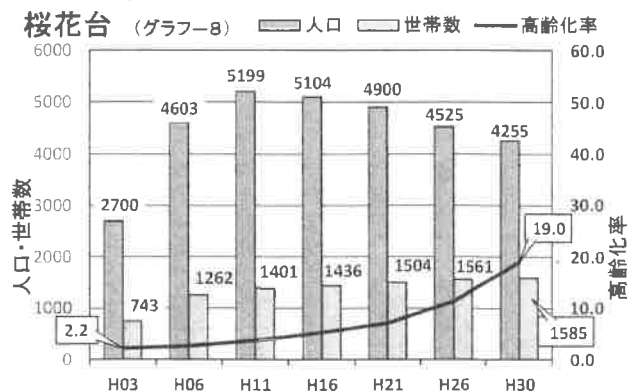
旧桜町 (グラフ6)



桜台 (グラフ7)



桜花台 (グラフ8)



住みなれた『桜』で、自分らしく暮らし続けることができる

『魅力のあるまちづくり』『福祉のまちづくり』に、力をお貸しください。

第34回 桜地区 歌と踊りの祭典 芸能まつり 華やかに開催される

桜地区文芸同好協議会主催



梅雨入り前の晴天に恵まれた6月3日(日)、桜小学校体育館において「チャリティ芸能まつり」が盛大に開催されました。

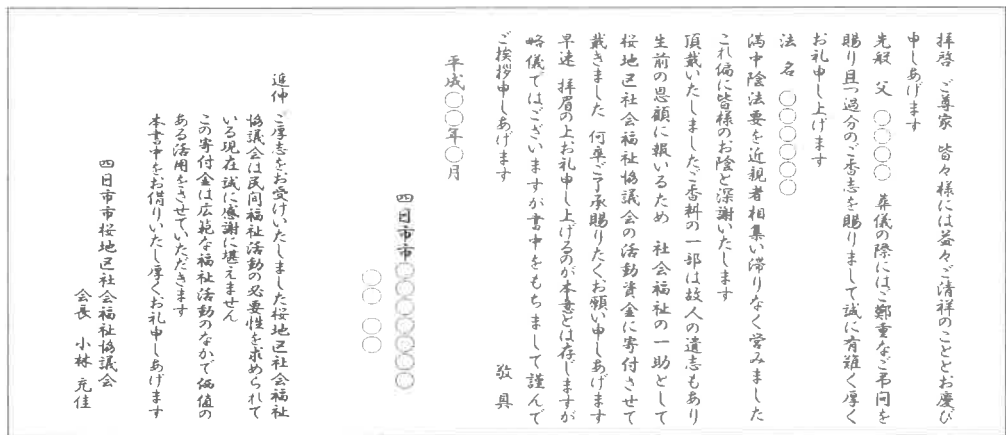
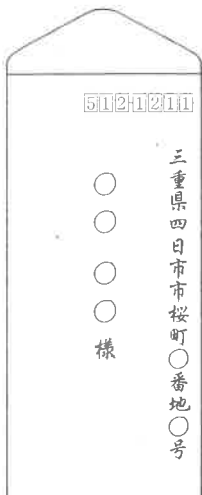
カラオケ・舞踊・フラダンス等、30組による充実した演目で、フィナーレでは、さくら音頭愛好会の皆様による明るく楽しい「紙ひこうき」の合唱をバックに、舞台と客席との紙ひこうきのやり取りがあるなど、和気あいの一日でした。



皆様の温かいお気持ちを社会福祉事業へ

『香典返し』に代えて一部を桜地区の福祉活動推進のためにご寄付いただければ
“暮らしよい桜の町づくり”に活用させていただきます

ご寄付いただいた皆様には、桜地区社会福祉協議会が、御礼の挨拶状を作成させていただきます。
なお、その挨拶状の文面は下記の通りです。



編集後記

特集「グラフで見る「さくら地区」の人口」を組んでみました。人口が減少傾向にあること、急速な少子化・高齢化が進んでいることなどがご理解いただけたことと思います。このような状況の中で快適な生活を送るためには、公的サービスに頼るだけではなく、みんなが少しずつ「智慧」と「力」を出し合って、地域全体で互いに支え合う「しくみ」を作っていくことが必要だと感じました。

(広報部一同)

ありがとうございました

次の方々から、善意のご寄付をいただきました。
(平成30年2月～平成30年8月)

●香典返し(敬称略)

智積町	柳	哲也	桜台	辻	正雄
智積町	中村	隆弘	智積町	中里	紀夫
桜町	酒井	洋典	智積町	小林	講治
智積町	山中	茂樹	桑名市	川口	博美
智積町	宮崎	喜代司			
桜町	清水	茂生			
桜新町	夏目	勝子			
智積町	小林	洋			

●ご厚志(一般)
松田 まや子
桜文芸同好会